

第5回 まちづくり常任委員会報告

9月1日

○調査事項

▽看護師住宅建設について

○調査事項

▽看護師住宅建設について

今まで医師、歯科医師住宅3戸、看護師等住宅11戸の計14戸を管理していた。一番古い住宅は、昭和43年建築の住宅で築49年を経過した住宅。3戸の医師住宅を除き、どの住宅も耐用年数の30年を経過している。現状において、看護師の正職員は11名。旧病院住宅には、3名入居している。その他、自宅から通勤している看護師は4名。公営住宅こざくら団地から1名、民間アパート2名、残りの1名は2階建ての町職員単身住宅に住んでいる。看護師を確保するために、専用の住宅を確保したい。

問場所は旧保育所の向かいに作るということだが、土砂災害の警戒区域なので。

答警戒区域は正確には保健センター側であり、問題はないと思う。

問古い45年以上の職員住宅は解体するのか。

答改修して利用することを考えている。町職員等を入れたいと考えている。

問民間アパートを建てて、そこを利用することはどうか。

答民間アパート建設補助というのは、町で制度化しているが、うまく機能していない。人口減少を食い止めるためにも住宅を整備し、職員の入居を進めたい。

▽出産祝金及び養育手当の支給制度の創設について

▽出産祝金及び養育手当の支給制度の創設について

出産祝金と満1歳までの養育手当を支給する制度。出産祝金は、第1子はなし、第2子は15万円、第3子30万円、第4子50万円、第5子以降百万円。

養育手当は、満1歳未満から1年が経過した時点まで、一人当たり月額1万6千円になる。

問算定基準は何か。他町

村に合わせた計算か。

答全道の自治体を調べた。全道的にも引けを取らない制度にした。

問制度の趣旨は何か。

答たくさん子どもを産んで育てていただきたいということ。

▽町道幌延下沼線道路改良事業について

▽町道幌延下沼線道路改良事業について

平成22年度より、計画的に道路改良工事を進めている。今年度改良工事を行っている酪農橋から2km地点、路肩掘削中に、鋼矢板を発見した。昭和50年代に行われた工事で、道路がJR側にずれ、線路に悪影響を与えたようだ。このようなことから、工事を中止し、取付道路の横断管の布設替も中止とした。

問本来であれば明渠が欲しい所だ。

答JR側に影響が出ないよう考えている。

問調査費が3百70万円程かかっている。調査期間はどれくらいになるか。

答JRとの協議もあり、来年3月中旬までを予定している。

▽新規就農者への支援について

▽新規就農者への支援について

本計画については、前回に概要を説明しているが、今後開催する幌延町酪農担い手育成センターで認定の可否について審査を受け、町で認定することになる。目標を達成させるための投資内容は、

- 農地と施設の取得 2千7百30万5千円
- パイプライン、水道工事、屋根の補修等の畜舎整備 1千1百74万1千円
- 乳牛の購入 4千21万6千円
- トラクターやモアコン等の作業機械 5千2百24万3千円
- 合計 1億3千1百50万5千円を予定している。

▽移住情報PR支援センターの整備について

地方創生の流れを汲んで移住系体制を充実させ、利便性向上、町のにぎわいの創出を図るため、幌延駅舎

の空きスペースを改修して、移住情報PR支援センターを整備するというものである。旧沿岸バス事務所を利用し、移住促進の窓口、相談、情報発信、移住住宅の運営、ちよっと暮らし等の受付の窓口の機能を持たせる。また、この中で軽食、駅カフェの機能を持たせたい。

今回の改修費は、6百58万2千円で、改修工事は6百万円。備品購入費で58万2千円を予定している。

▽北方地域振興センター等の取得について

▽北方地域振興センター等の取得について

かねてから協議中の地圏環境研究所の取得の件について、9月に取得費用を計上して11月には売買の仮契約の締結を考えている。北方地域振興センター等と書いているが、研究棟と共同住宅二つの建物と別れている。研究棟は当然地圏環境研究所の有意義な研究を目的とし、空き室はテナントとして、貸事務所、貸会議室などに利用していきたい。又共同住宅としての活用を